

企画展「自由律俳句で味わう四季」展示作品一覧

山頭火ふるさと館
令和六年十二月十三日～令和七年四月六日

冬				秋				夏				春			季節
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
驛は山のじぐざぐも上州に入る冬の雲	其中雪ふる一人として火を焚く	竹の葉のいちはやく音たてて霰	枯草の中の花である	案山子泳いで黄金の波	すでに秋の山山となり机に迫り来	住めば柿の実の赤くして（其中庵）	年とればふるさとこひしつくつくほうし	炎天、子の欲りし水がながれている	山一つ山二つ三つ夏空	陶窯の火を打ちとめて天の川	ほうたるこいくふるさとにきた	花吹雪と言はんより木瓜の散る如し	季節の速度梅ひらく	これから旅も春風の行けるところまで	作品
荻原井泉水	種田山頭火	種田山頭火	種田山頭火	青木此君楼	尾崎放哉	種田山頭火	種田山頭火	松尾あつゆき	中塚一碧楼	内島北朗	種田山頭火	河東碧梧桐	伊藤雪男	種田山頭火	作者
掛軸	掛軸	短冊	短冊額装	『せきれい』 白嶺社 (昭和三十八年)	『大空』 春秋社(大正十五年)	短冊軸装	短冊	『ケロイド』 層雲社(平成三年)	『一碧楼句抄』 巢枝堂書店 (昭和二十三年)	短冊	短冊	短冊	『花の群落』 層雲自由律の会 (平成十年)	短冊	展示資料